

1. 専門領域名 矯正歯科

2. 専門領域についての説明

(1)専門性を紹介する文章

歯並びや噛み合わせ（咬合）の不正（不正咬合）は国民が健康で豊かな生活を送る上で欠かせない咀嚼（食物を歯で噛み細かくすること）、発音、呼吸などの顎口腔機能や心理的、社会的な障害を含む複雑な病態です。そのため矯正歯科治療は、歯列や咬合に関わる形態や機能の不調和を改善し、成長発育を考慮しながら調和のとれた形態と機能へと導く治療です。

このような高度で専門的な矯正歯科治療を提供するためには、術者が矯正歯科領域における診断、治療に関して高度な技術、経験、そして専門知識を備えていることが不可欠です。しかし今までは矯正歯科を受診する際に、歯科医師が専門的な研修や教育を受け、高度な技術、経験、知識を持ち合わせているかを客観的に判断することは困難でした。

この度 2024 年 9 月に国が広告可能と認める矯正歯科専門医制度が設立されたため、矯正歯科専門医や矯正歯科診療施設の情報を提供することで、患者の矯正歯科治療受診にあたり選択肢を広げると共に、ひいては安全・安心な矯正歯科医療を提供することで、国民の健康福祉の向上に貢献したいと考えています。

(2)対象疾患名を含む専門性についての詳細な説明

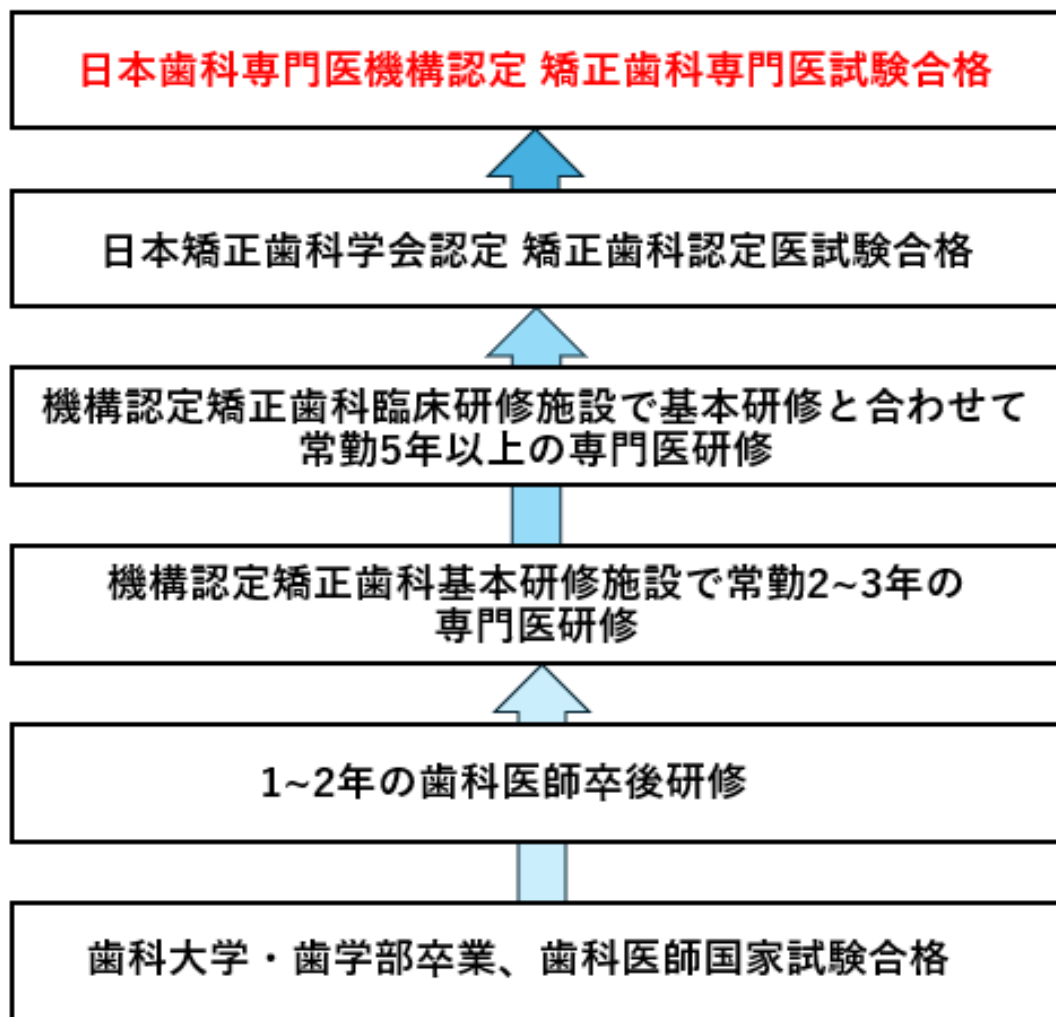
矯正歯科治療の対象疾患は、歯並びや噛み合わせの悪い多種多様の病態（不正咬合）とそれによって引き起こされる社会的、心理的障害が含まれます。さらに対象年齢も幼児から高齢者まで広範囲に渡り、特に成長期の患者さんでは顎顔面頭蓋の正常な成長発育を誘導して顎口腔領域や全身の健康を維持増進して社会的、心理的な環境の改善が必要となります。

矯正歯科治療の典型的な対象疾患は、出っ歯（上顎前突）、受け口（反対咬合）：八重歯・乱ぐい歯（叢生）、開咬、顎骨の手術が必要な顎変形症、唇顎口蓋裂や先天異常に起因する不正咬合、先天的多数歯欠損症などがあります。

これらの多様な疾患の矯正治療を行うためには、矯正歯科領域における高度な臨床技術、経験、知識さらには他科との連携が必須です。そのために下記のように歯科大学・歯学部卒業後、1～2年の歯科医師卒後研修を修了した後、専門領域である矯正歯科の専門医研修に入ります。日本歯科専門医機構認定の専門医を取得するためには、まず日本歯科専門医機構が認定する歯科大学・歯学部の矯正歯科を含めた基本並びに臨床研修施設で常勤5年間以上の矯正歯科専門医研修を修了し、日本矯正歯科学会認定の矯正歯科認定医試験を受験して認定医資格を取得します。その後、多種多様な症例に対応できるように一層の知見を深めたうえで専門医試験を受験します。つまり歯科医師卒後研修が修了し

てから日本歯科専門医機構認定の矯正歯科専門医受験資格が得られまでに、少なくとも 7～8 年間の研修が必要になります。

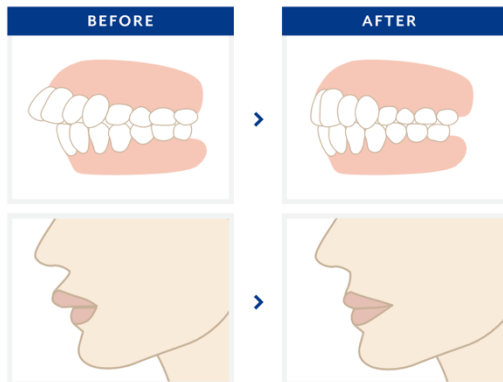
日本歯科専門医機構認定、矯正歯科専門医取得の流れ



3. どのような場合（具体的な症状等）、矯正歯科領域を選べばよいのか？

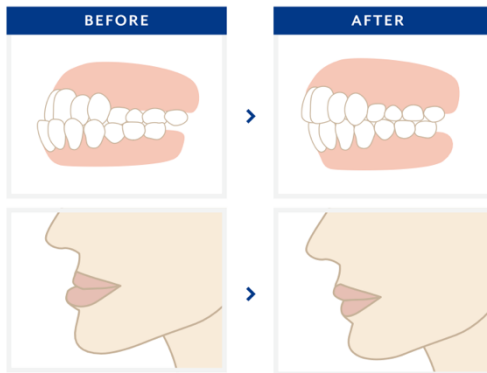
矯正歯科治療の対象疾患は、咬み合わせの悪い多種多様の病態（不正咬合）がありますので、程度に関わらずまず掛かり付けの歯科医師あるいは、矯正歯科専門医に相談していただくのが良いと思います。矯正歯科治療が必要な典型的な不正咬合を下記に記載します。

出っ歯（上顎前突）



上の前歯が強く前に傾斜していたり、上の歯ならび全体が前に出て噛んでいます。また下のアゴが小さかったり、後ろにあることで見かけ上、出っ歯にみえることもあります。この状態では、口を楽に閉じることができませんし、顔のケガで前歯を折ったり、くちびるを切ったりしやすいです。またこの噛み合わせにより、下の前歯が上の前歯の裏側の歯ぐきを傷つけていることもあります。

受け口（反対咬合）



下の歯が上の歯より前に出ている噛み合わせです。上下の前歯の傾きに問題がある場合と下のアゴが大きすぎたり上のアゴが小さすぎることによる場合とがあります。アゴの大きさに問題がある場合、アゴの骨の成長によって変化しますので、成長のメドがたつまで長く追いかけていかなければなりません。うまく噛めないだけでなく、聞き取りにくい話し方になることが多いです。

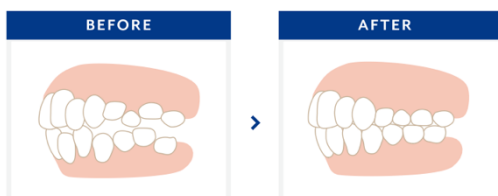
八重歯・乱ぐい歯（叢生）

八重歯

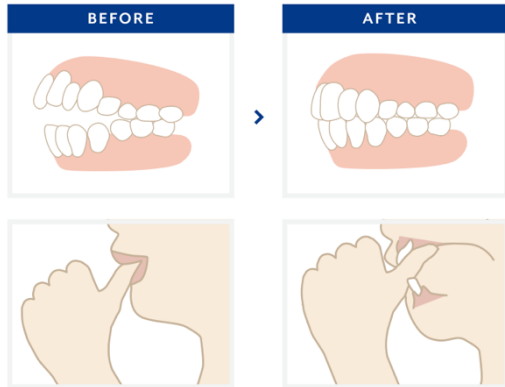


歯ならびがデコボコになっている状態を「乱ぐい」といいます。上の糸切り歯が歯ならびから飛び出しているのを、普通「八重歯」と呼びます。日本では「かわいい」と言われることもありますが、欧米では「ドラキュラの歯」と呼ばれ嫌われます。歯がならぶ場所＝骨の大きさとそれぞれの歯の大きさとの間のアンバランスでこのようになります。歯みがきの時に歯ブラシが行き届かずに汚れが残りやすく、虫歯や歯槽膿漏の原因となります。

乱ぐい歯（叢生）

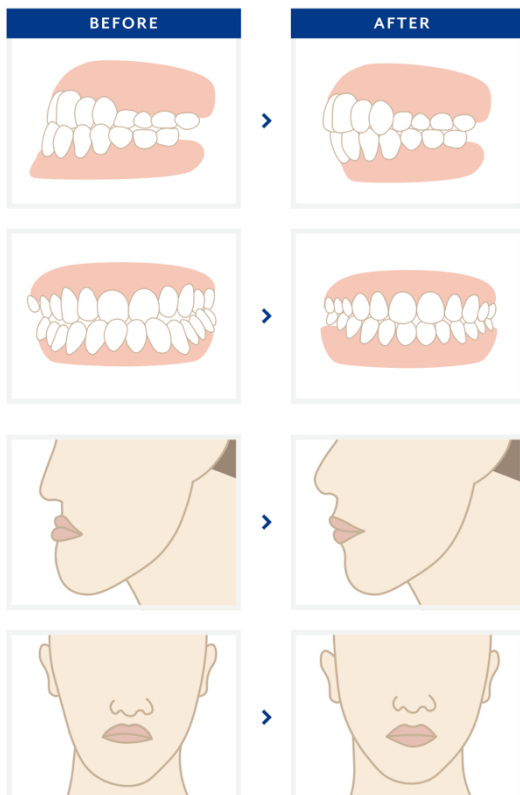


開咬



噛んできても、特に前歯が噛み合わない状態です。前歯で食べ物をうまく噛みきることができないだけでなく、正しい発音ができないことが多いです。幼稚園児や小学生になっても、下の写真や図のような指しゃぶりを続けていることが原因になることもあります。他には「舌」の悪い癖や遺伝的な問題も原因となります。

手術が必要な顎変形症



23歳の男性です。「食べ物が噛み切れない、歯並びの真ん中がずれている、噛み合わせが反対、下アゴが出て、曲がっている」とのことで、矯正治療を希望されました。

「反対咬合を伴う顎変形症」と診断され、矯正治療のみでは、安定した噛み合わせにすることは非常に困難で、またアゴの曲がりを改善するために、アゴの骨に対する外科手術を併用することとなりました。外科手術により、上アゴの骨を前方に、下アゴの骨を後方に移動させ、その手術前後に矯正治療をおこないました。

唇顎口蓋裂や先天異常に起因する不正咬合

生まれつき顎顔面の先天的形態異常があり、それに起因する不正咬合がある場合は、矯正歯科治療のみならず顎骨の手術を併用することもあります。

先天的多数歯欠損症

生まれつき多くの永久歯が先天的に欠如していることで、うまく噛み合わせができない状態、などがあります。

また、矯正歯科治療は一般的には健康保険適応外の自由診療ですが、唇顎口蓋裂や他の先天異常に起因して不正咬合を招くほとんどの疾患や、顎骨の手術を併用して治療する顎変形症、並びに一部の先天的多数歯欠損症には健康保険が適応されます。

以上の様に矯正歯科治療の対象疾患は、多種多様の病態があり、様々な機能障害に対する予防・抑制、治療に留まらず、成長期の患者における顎顔面頭蓋の正常な成長発育を誘導し顎口腔領域や全身の健康を維持増進するとともに、患者の心理的・社会的な環境をより良く方向づける事により、患者の QOL（生活の質）を向上させる事にも寄与しています。また、成人や高齢者における補綴的処置（入れ歯やブリッジ等）を行う場合に際しても、前処置として矯正歯科治療を行い残存歯の位置や傾斜などを修正することで、より良い咬合を構築することができます。

歯並びや噛み合わせで心配な事がありましたら、ぜひ矯正歯科専門医にご相談ください。